

第8回 マス・メディアは万能か ― マス・メディアの効果研究

8-1) 強力効果説の検証と大衆社会論

マス・メディアの効果研究 → 強力効果説(マス・メディア万能論)を検証しようとしたもの

- ・弾丸理論(bullet theory)／皮下注射効果モデル(hypodermic effect model)

強力効果説の社会的背景

- ・ヒトラー政権の樹立、ナチス政権自身がラジオの寄与を宣伝
- ・ルーズヴェルト大統領の「炉辺談話(fireside chats)」
- ・火星からの侵入事件(1938年10月30日)
- ・ケイト・スミスのマラソン放送(1943年9月21日)¹

強力効果説の二つの前提 (カッツ[Katz]とラザースフェルド[Lazarsfeld])

- (1) メッセージの受け手は何百万というバラバラな原子としての大衆(mass)である、という仮定
- (2) あらゆるメッセージが直接的かつ強力な刺激となって個々の人間に無媒介な反応をひき起こすという仮定

→ ただし、慎重な研究者は受動的な大衆が出現する条件を探究

8-2) 選択的接触と先有傾向 ― メディアの限定効果説

ラザースフェルド(Lazarsfeld)らは、1940年のアメリカ大統領選挙に際してパネル調査²。

- 人々の投票意図の変化とその影響源を追跡
- マス・メディアを通じた選挙キャンペーンが、人々の投票意図を変えさせるほどの効果を産むことはきわめて稀であることを発見(マス・メディアによる改変効果が見られた人は全体の5%)。
- 「コミュニケーションの2段階の流れ」仮説へ

マス・メディアが人々の態度や行動を変化させず、むしろ、強化・結晶化させるのは何故か？

- 選択的接触(selective exposure: マス・メディアとの接触に際して人々が示す選択傾向)
- ・ 人々は一般に、先有傾向(predisposition)に見合った内容をもつメディアに接触

8-3) テレビの普及と複合影響説の登場

1960～70年代 マス・コミュニケーション状況は大きく転換 → 新しい効果研究

基本的にメディアの影響力を大きく捉える複合影響説が登場

¹ この事件を、社会学者のマートン(R. K. Merton)は**献身の三角形**というモデルで説明する。すなわち、(1)兵士たちの献身、(2)他の聴衆者たちの献身、(3)マラソン放送によって示されたスミスの献身、という三方からの圧力が、多くの聴衆者の心中に強い自己嫌悪と罪悪感を作り上げ、彼らは戦時国債を買うことでここから逃れようとした、とされる。

² ある期間中、同一質問による調査を繰り返して、その間の意見の変化をみる方法。

8-3-1) 議題設定機能

「今なにが問題なのか」という争点＝議題(*agenda*)をマス・メディアが設定する

→ 議題設定機能(*agenda-setting function*)

マコームズ／ショーの研究(McCombs and Shaw, 1972)

1968 年のアメリカ大統領選挙、ノースキャロライナ州のあるコミュニティ在住者 100 人

・選挙における中心的争点はなにか → 個人面接法で調査

・この地区で入手可能な主要マスメディアの内容分析

争点に関する内容分析と、有権者の回答の分類結果とにきわめて高い**相関**。強い対応関係。

8-3-2) プライミング

イェンガーらによる研究(Iyengar, S., 1987)

議題設定効果よりももっと短期的に現れ、消失する効果

先行する情報への接触 → さまざまな連想や思考などを産出 → 後続の事柄の判断基準となる
という認知心理学の仮説に基づく考え方

ex).イランのアメリカ大使館人質事件と 1980 年の大統領選挙

8-3-3) 沈黙の螺旋

多くの人々は孤立を恐れ、意見を表明する際にもどれが多数意見かを確認する。(→ 疑似統計
感覚)

・自分の意見が少数派・劣勢 → 孤立を避けるために意見表明は控える

・自分の意見が多数派・優勢 → 意見表明の積極性が増す

どの意見が多数派／少数派か・優勢／劣勢か → マス・メディアが判断基準に。

→ 反対意見は表明されにくくなり、そのため反対意見はますます少数派として認知される

このような相乗的・累積的増幅過程 → 「沈黙の螺旋(*spiral of silence*)」(Noelle-Neumann, 1974)

マス・メディアの影響 → 研究が進むにつれ、ますます複合的なものとして立ちあらわれる

この複合性の原因は、メディアの側というよりは、受け手の側にある

【参考文献】

Cantril, H., 1940, *The invasion from Mars: a study in the psychology of panic*. = 1996, 斎藤耕二・菊池章夫訳, 『火星からの侵入』, 川島書店.

Lazarsfeld, P. F., et. al., 1944, *People's Choice*. = 1987, 有末広介監訳, 『ピープルズ・チョイス』, 芦書房.

Noelle-Neumann, E., 1974, *Die Schweigespirale*. = 1990, 池田謙一ほか訳, 『沈黙の螺旋理論』, ブレーン出版.

Klapper, J. T., 1960, *The Effects of Mass Communication*. = 1966, NHK 放送学研究室訳, 『マス・コミュニケーションの効果』, 日本放送出版協会.